



障害のある子どもたちの放課後等の過ごし方を考えていこう！

～放課後等デイサービスの現状から見えてくるもの～

水仙の群生の甘い香りに心和む2月20日(木)に第188回障害者地域生活支援研究会が開催されました。今回のテーマは「障害のある子どもたちの放課後等の過ごし方を考えていこう！～放課後等デイサービスの現状から見えてくるもの～」です。

最初に北九州市保健福祉局障害福祉課 刈間 翔吾さんから、「制度説明と北九州市の現状」と題して“放課後等デイサービス”のサービスの概要、サービスの報酬説明をして頂きました。

現在、市内では33事業者が“放課後等デイサービス”を行っており、565人の児童が利用しているとのことでした。これは平成24年4月に比べ、事業者数、児童数共に3倍に増えているとのことでした。

北九州市では“放課後等デイサービス”就学期の支援として重要な位置づけと考えているため、「今後も支援体制を整備し、『預かる』だけではなく、『発達段階に応じた支援をする』ことを重点に障害のある子どもの放課後対策の充実を図っていきたい」とのことでした。

続いて、北九州市障害者基幹相談支援センター 相談員 大島 梢さんから、事例提供として 秋本 夏子さん(仮名)7歳のこれまでの成育歴、現在の生活と医療状況を紹介すると共に、夏子さんのお母さんの想いが込められた手紙を、大島さんが代読しました。

この他、一緒に夏子さんの支援に関わっている 北九州市障害者基幹相談支援センター 地域アドバイザーの今村 廣子さんから、夏子さんを支えてきた中でエピソードを話して頂きました。夏さんが利用できる機関・事業所等を探る中で苦労があったようですが、「夏子さんをご家族の笑顔を見る喜びに勝るものはない」とのことでした。



引き続き、夏子さんの支援を行っている、生活介護・放課後等デイサービス・児童発達支援事業所 アイデアホーム錠(かすがい) 管理者 小島 光代さんから、事業所の紹介、事業所で心掛けていることや夏子さんに対してのケアの実際をお話頂きました。「医療的ケアが必要な子どもさんは手間も時間もかかるので、事業所の運営面で厳しい現状があるが、少しでも夏子さんに合った支援が出来るように、障害が重たい子どもさんを支援できるように、地域の総合病院と連携して、しっかりと確実にきめ細かい対応して一人ひとりを見ていきたい」とのことでした。

また、参加されていた小児科医の方からの、「在宅医療に重きを置く小児科医師が増えている」という現状と「障害の重い子どもたちと関わる中で日々学ばせてもらっているが、喀痰吸引に関しては医師でもリスクがあり、技量の充実のために研修を受ける必要性と、万が一事故が起こった時の保障制度を、行政がバックアップする体系作りが大切」とのお話を伺いました。

始まって間もない“放課後等デイサービス”。「利用したいけれど、利用できない…」「受け入れたいけれど、受け入れられない…」課題はひとつではなく、子どもの数だけ課題があると思います。今後、福祉と医療と教育が垣根をなくして取り組んでいくことと、重度障害児者・発達障害・行動障害の専門研修を行うことによって、課題がクリアされていくのでは、と期待されているとのことでした。

本日の参加者は91名。内28名の新規の方にご参加頂きました。ありがとうございました。



【…しえんちゃん、けんたクンの独り言…】

北九州市内の特別支援学校・学級に通う児童生徒は2,200名(平成25年5月1日現在:教育要覧2013より)くらいいるんだって。放課後等デイサービスを利用していない子どもたちはどんな放課後を過ごしているんだろうなあ。ちょっと気になっちゃった!

※こちらの議事録は
北九州市障害者自立支援協議会の
ホームページでもご覧いただけます。
<http://kitakyushu-net.shien-c.com/>

